

科目名	小児看護学対象論（看護）	対象学年・時期	2年・前期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間(30時間)
授業概要	子どもの発達と看護（概論）の知識を踏まえた上で、様々な状況下における小児看護の基本的知識を習得できるようにする。小児看護においては、子どもの身体的・精神的な特徴から、どんな状況下でも対象となる小児とその家族が健やかに生活するために必要な看護を求められる。 小児と家族は相互関係を展開しており家族の影響は大きい。そのため小児が健康な成長発達をするためには、その家族自体が安定していることが必要となる。疾患を持つ様々な状況におかれた子どもの看護と同時に家族の看護も重要であることが理解できるようにする。		
授業形態	講義・グループワーク		
学修目標	1. 健康を害することが子どもと家族にとってどのような影響を及ぼすのか理解できる。 2. 様々な状況下に置かれた子どもとその家族の状況を捉えた看護について理解できる。 3. 健康レベルに応じた子どもとその家族の看護が理解できる。		
授業計画	1. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 (発達段階に伴う病気の理解・プレパレーション) 2. 急性期にある子どもと家族への看護 (発熱・呼吸困難・嘔吐・下痢等の看護) 3. 慢性期にある子どもと家族への看護 4. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護/外来における子どもと家族への看護 5. 災害を受けた子どもと家族への看護 6. 被虐待児と家族への看護 7. 在宅における子どもと家族への看護【医療的ケア児とその家族の看護】 事前学修：各発達段階の成長発達の復習 事前学修：症状のメカニズムについて (発熱・呼吸困難・嘔吐・下痢)		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 第7版 メディカ出版 中野綾美(編)		
事前・事後学修	事前学修については、指定日まで教員に提出してください。		
評価基準・評価方法	筆記試験で評価		
備考			